

平成18(2006)年4月10日

第 31 号

世田谷稲門会 一敷夫次
谷倉澤島原 邦利
世土細寺江 川村保夫
発行人集 編

事務局 〒157-0067
東京都世田谷区喜多見4-33-25
TEL/FAX03-3417-7104

世田谷稲門会会報

第十五回定時総会

五月十三日(土) 開催

※※※※※※※※※※

※※※※※※※※※※

杉山邦博氏略歴

世田谷稲門会の第十五回定時総会は五月十三日(土)午後五時より「こまばエミナース」で開催することが決まりました。

昭和五年生まれ。福岡県北九州市出身。

昭和二十八年早稲田大学文学部卒。同年NHKにアナウンサーとして入局し、スポーツ実況を主に昭和六十二年定年退職に至までNHKの放送

現場一筋に活躍。

スポーツは大相撲をはじめプロ野球、メキシコオリンピック、東京オリンピックなど多岐にわたる実況放送を担当し、なかでも大相撲の取材・放送は通算四十五年間に及ぶライフワークとなっている。

著書に「兄弟横綱」など。

現職は日本福祉大学客員教授、同大学・生涯学習センター長。

年退職に至までNHKの放送

所沢キャンパス

人間科学部・スポーツ科学部

母校の今 第五回



狭山丘陵の一角に位置する緑豊かなキャンパスの正門を入ると所沢のシンボル「人とペガサス」の像がそびえ立つ。天をめざす勇姿に学生達にも

大きく羽ばたいて欲しいという願いが込められていると言う。

右手に野球場、テニスコート、学生駐車場(一二〇台、

左手に全天候型のハココース、四〇〇メートルの陸上競技場トラックを見乍ら進むと所沢のメインキャンパス一〇〇号館に到る。

六階建のこの建物は周囲の自然環境にも美しく調和している。教室、図書館、学生食堂、事務センター、教員室等が収容されている。他にも競技用の日本水泳連盟公認の五十メートルのプール、水深五メートルの飛び込み用プール、トレーニングルーム、コンピュータールーム等が整備されており、卒業四十年以上が経過した我々にとっては、羨望の限りである。

(川村保夫／撮影 細澤勲／記)



新年会華やかに開催

篠田正浩監督熱演

恒例の世田谷稲門会の新年会は、一月二十八日(土)にこまばエミナースで百二十一名が参加して盛大に開催された。

第一部は鈴木宏治幹事長の司会でスタート。

今回は講演者に篠田正浩映画監督を迎え、「私はどうして『スパイ・ゾルゲ』を作ったか―情報社会とは何か―」とい

う演題で講演していただいた。監督最後になるというこの作品ではソ連の諜報員ゾルゲが尾崎秀実を協力者に取込み、一大スパイ組織を着々と作り上げていくのだが、「歴史学者篠田正浩」としてその背景にある戦前の昭和史を見事に分析・解説していただき、参加者一同その豊富な知識と洞察

力に感銘した。

また会場の鳳凰の間には昨年に続き写真部会の方々の作品が展示され会場に華を添えた。

第二部は会場をダイヤモンドの間に移しての和洋食バイキング。今回はブロック会員ごとにテーブルが設営された。

新入会員の紹介、土倉享一会長の挨拶のあと大須賀肇会員が乾杯をおこない宴会がはじまった。

食事・アルコールも入り、歓談も一段落下ところで恒例のビンゴゲームがスタートした。

着物姿の柏良子副会長以下女性会員の議事進行で華やいだ盛り上がりを見せ会員から寄贈された豪華景品が次々に手渡された。

最後は岩上健一副会長の音頭で校歌を斉唱し、川村保夫事務局長の中締めで締め括った。

なお次ぎの方々からビンゴゲームの景品を寄贈していただきました。(敬称略順不同)

土倉享一、川村保夫、岸田正和、柏良子、こまばエミナス、斉藤正憲、鈴木宏治、高橋悦男、辻村ひろみ、富永孝子、内藤隆福、細沢勲、横田吉明、石井孝之

新年会の“お年玉”

岩村 明彦

(昭和三十政経)

一月二十八日に開かれた新年会で思わぬ“お年玉”を頂いた。懇親会恒例のビンゴで開始早々次々に番号が当り、まさかの一位となった。籤やギャンブルに全く運がなく、ビンゴも一度として当選したことのない私にとっては奇跡

といつてよい幸運である。

司会者のご婦人から「奥様にいかがですか」と勧められた賞品は、時価二万五千円相当という保証書付きのピンタック。大事に持ち帰って妻に渡すと、私と同様籤運の悪い妻は「まあラッキー。今年はいい運が向いてくるかもしれないわね」と喜色満面。この賞品は会員のどなたかのご寄付とのことで、私も来年のビンゴにはお返しとして、ささやかな品でも寄付しなければと思案している。



新年会ではもうひとつ嬉しいことがあった。「私はどうして『ゾルゲ』を作ったか」と題して講演した篠田正浩監督と“私的な会話”を交わしたことである。たまたま正月のテレビ番組で篠田監督のご夫人、岩下志麻さんが京都の撮影現場や割烹など思いつきの地を巡る特集に出ているのを観た。彼女はその番組の中で篠

田監督に「監督と結婚するよな気がする」と言つて、事実上のプロポーズをしたと打ち明けていた。

岩下志麻さんが名作「古都」

(昭和三十八年、川端康成原

作、中村登監督)で一人二役を熱演して以来のファンである私としては、この際、篠田監督に確かめておきたいと、懇親会のころあいを見計らって監督の隣の席に押しかけた。

「奥様からのプロポーズは本当ですか」「そうです。私は結婚するつもりはありませんでしたから」「世田谷稲門会にもファンがいたとお伝え下さい」「わかりました。伝えます。私はファンの皆さんから恨まれているんですよ」「それにしても若いころの監督は格好いんですね」「私は体育会系でしたから」講演内容もさることながら上背のある背筋をピンと張り、颯爽と歩く篠田監督は年齢を感じさせない文武両道の見本のような感銘を受けた。青春時代にスポーツに励んだ私も及ばずながら見習いたいと肝に銘じた。これも“新年会のお年玉”として大事にしていきたい。

部会だより

スポーツ観戦

平成17年12月4日国立競技場で伝統の早明戦を観戦した。当日はあいにくの雨中の対戦となったが、山口世話人の尽力で20名が参加した。今シーズンは清宮監督が史上最強のチームと明言した通り早慶戦に続いて40対3とノートライの圧勝であった。久しぶりに強い早稲田を観て対抗戦5連覇の完全優勝を達成した好試合であった。90年代の初め頃、早明戦で認定トライの屈辱を受けて敗れた頃を想記すると雲泥の違いで心底から満足できた楽しい試合であった。対抗戦グループの優勝を決めた後の大学選手権でも法政を大試合では珍しいスクラムトライを得て大勝、決勝戦では5年連続の関東学院戦であったが、過去の対戦成績2勝2敗に結着をつける41対5の大差で完勝し、勝利の部歌“荒ぶる”が国立競技場に響き渡ったシーズンであった。

来期も強い早稲田を期待してみんな観戦しましょう。

(岸田 正和/記)



(写真は対関東学院戦・早稲田大学広報室 提供)

カラオケ

去る1月22日(日) 第22回例会(新年会)を、池ノ上のカラオケサロン「トレモロ」を借りきり、開催しました。当日は、新年会も兼ねており、新趣向として特別ゲスト二名(土倉会長と渋谷稲門会のカラオケ部会/勝見氏)をお招きして、総勢25名の賑やかな会となりました。

会は最長老内藤氏(百歳)の乾盃でスタート、デュエットやダンス等も含めて、各自自慢の喉を披露、当サロンのママ手作りの料理やワイン等も楽しみながら、親睦を深めました。

ゲストの方々も、勝見氏が「マイウェイ」等を熱唱、又、土倉会長も「昂」等の難曲に挑戦、各々なかなかの歌い手であることを示されました。

今後も機会があれば、他の稲門カラオケ部会の方々と、交流を図って行きたいと考えています。尚ゲストお二人の感想は、「部会員の方々が積極的で、又皆さん上手です」との事でした。

当日の締めは、全員で校歌も斉唱、散会しました。次回は、3月25日(土)、拠点の「ドレミファクラブ」での例会で、「プロと一緒に歌おう」の第二回目を企画しております。ご期待下さい。

(蒲原 信一/記)

釣 り

- 1 2月 25日 銚子ヒラメ 3名参加 60cm弱2枚
- 3 1日 伊豆城ヶ崎海岸磯釣り 2名参加 釣果ゼロ
- 1月 1・2日 川奈・富戸堤防 20cm級メジナ・海タナゴ3~4枚
2名参加
- 1 3日 新年会 “魚一丁”銀座店 9名参加 会費3,000円
- 2月 12日 銚子カレイ 7名参加 荒天のため不漁 0~5枚
- 3月 18・19日 狩野川本支流溪流釣り 伊豆高原泊
- 3月 26日 沖釣り 銚子のカレイ
- 今後の予定
- 4月 8・9日 溪流釣り
- 3 0日 沖釣り 銚子のカレイ
- 5月 3・4日 溪流釣り

新年度も毎月の沖釣り、磯釣り、溪流釣りに加え、秋には初島での合宿、新年情報交換会などを企画しています。

(柴田 昇/記)



ゴルフ

いよいよ本格的な春の足音がまじかに聞こえてきていますが、ゴルファーにとっては心躍る季節が到来し、日頃の練習にも熱を帯びてきています。さて、ゴルフ部会もいよいよ平成18年度のシーズン・インとなり、開幕の第一戦が4月4日中津川CCにて行われます。例年桜が満開となる最高のフィールドでのプレーを楽しむことが出来ますが、今年も花の女神は我々に微笑んでくれるのでしょうか。

部会員も大台を突破し101名となり、益々盛会となってきました。皆様に本年も更楽しんで頂くとう世話人一同張り切っておりますので、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

本年度のコンペ開催予定ですが次の通りとなっておりますのでどうぞご期待下さい。

第二回 6月2日(金) 大月CC

第三回 9月中旬 (足柄森林CC-検討中)

第四回 11月中旬 飯能GC

(熊谷 慶紀/記)

ボウリング

平成9年7月 世田谷オークラブオウルにおいて、渋谷稲門会との合同開催をスタートさせて、昨年11月で連続100回目の例会達成。今後とも毎月1回の開催を継続して更に200回の実現を目指して頑張ります。11月は27日(日)に、参加者17名 当月は100回記念ということで賞品付の特別大会。前1年間の実績によるハンデ付で、和気あいあい声援と拍手をしながらの楽しい投球。賞品は早稲田グッツ、和洋高級酒、各種銘菓等、高得点順にお好みのものを選択、全員に授与。1位山口進吾571点、2位新井武511点、3位高橋順子501点(以上何れも3ゲーム合計得点、ハンデ込)

12月は25日(日)に、参加者10名。(1ゲーム高得点ベスト3)

141点山口進吾、124点峰本俊一、122点江口力 山口さんが先月優勝の余勢をかって好調持続。

1月は22日(日)に、参加者12名。157点齊田裕二、145点江口力、142点新井武

齊田さん、江口さん共にターキー(3連続ストライク)を出して快心の投球。

2月は26日(日)に、参加者13名

156点宮木甫、148点山口進吾、139点高橋善一郎 宮木さん、絶妙の制球力で、ストライク・スペアの連発!!

当部会は、毎月第3または第4日曜日に午前11時からの開催、3ゲーム約1時間半の運動、お気軽にご参加のほどお待ちいたしております。(武藤 哲/記)



麻雀

皆様の暖かい御支援の下、盛況に八周年を迎え部の再活性化に取り組んで居ります。

1. 12月18日 師走を控え超多忙にもかかわらず、29名の猛男猛女が集い技を競った。前半、脇坂、寺澤、高橋氏が抜け出し、それを依田、池田、大矢各氏が追う展開となったが、先行の二人が逃げきり、貫禄を示した。この後、当日の試合振りを肴に恒例の忘年会を開催し懇親を深めた。

優勝 脇坂元彦、準優勝 寺澤隆夫、三位 池田良夫、四位 依田稲道、五位 大矢和親、六位 木村滋

2. 平成18年1月14日 松の内が漸く明けた日本晴れの日、過去最多の32名の紳士淑女が卓を囲んで白熱した戦に挑んだ。前半はドングリの背比べであったが、後半は草野氏が半チャン82点を含む大活躍をし創部以来の142点で二位以下に大差をつけ優勝した。

優勝 草野昭次、準優勝 高橋毅、三位 大矢和親、四位 有利純太郎、五位 大石邦雄、六位 菊池吉晏

3. 2月19日 小春日和の日、22名の同好のさきが集い、口と技を競った。試合は初回観戦に廻った上保氏が、先行する木村、吉村(善)、河村(卓)三氏をゴボウ抜きにし、二位以下に大差をつけ久しぶりに優勝した。

優勝 上保幸夫、準優勝 木村滋、三位 吉村善智、四位 原諒子、五位 河村卓郎、六位 阿部信之、尚、当部では、初心者向、麻雀指導会も開催して居りますので、ご興味のある方は、代表世話人宅迄、葉書又は携帯でご一報下さい。折返し、ご案内状をお送り申し上げます。(〒156-0055 世田谷区船橋3-22-14-105 下谷内 堯 携帯 080-5540-0245) (下谷内 堯/記)

囲碁将棋

第一回オール早稲田将棋祭開催

去る11月20日新学生会館にて、卒業生、稲棋会教職員、現役を含め、総勢35名で行われた。世田谷稲門会からも郡山さん、柴田の2名が参加した。戦績はAクラス5段の大田区の佐久間さん、Bクラス初段の当会の郡山さんが優勝、今回安食女流プロも出席し3人打ちを披露した。母校出身には、丸山前名人もあり、今後プロによる指導将棋の企画も予定されている。当会は少ないので是非参加として下さい。

次回は11月19日の予定です。(柴田 昇/記)

第23回囲碁会「杉の宿」合宿

3月5～6日梅見を兼ねて常宿の湯河原杉の宿で総勢10名で行なう。着後早々に対局開始、蒲原、杉江さん、矢田が勝ち進む。6局后夜宴に入り、斎藤、萩原、蒲原さんのカラオケも披露され、翌朝春一番吹く中を山麓の紅白の梅林を観賞し、昼食后散会した。(矢田 廣/記)



食べ歩き

12月2日(金)平成17年度第2回例会を開催。参加者30名。今回は東銀座の「三重ノ海」で旬の食材をふんだんに使った会席料理を寛ぎの空間で心おきなく堪能した。岸田正和氏の司会で進行。当店の店長(元三重ノ海・現武蔵川親方の長男石山俊明氏)よりの歓迎の挨拶に続いて、大須賀肇代表世話人の挨拶並びに会務報告があり水島豊氏の発声による乾杯で懇親会は開宴。食に対するこだわりを美味しくまとめた季節感あふれる料理を味わい吟醸酒の美味に酔い歓談は弾み大いに盛り上がった。鈴木宏治幹事長



より、1月28日の世田谷稲門会新春懇親会の概要(早大出身映画監督・篠田正浩氏の講演やビンゴゲーム等の催し)や稲門祭実績報告があり、武居達治氏(早大総長室参与)よりは「創立125周年記念事業募金地域別申込状況」、「データで見る早稲田」について資料に基づき詳細な報告があった。会場は最高に盛り上がり時の経つのも忘れる程で閉宴の時刻となり、柏良子副会長の中締の挨拶でお開きとなった。解散後は三々五々東銀座地区の歴史的建造物(歌舞伎座・新橋演舞場・料亭金田中等)めぐりを楽しんだ。(大須賀 肇/記)

ウォーキング

第38回 みなとみらい巡り 2月12日

10時に集合。風が少しあるものの、空はブルー。歩き易そうそで一日タツプリ楽しめそう。

赤レンガ倉庫街で準備体操をし、「大栈橋」に先ず向かう。日本一の旅客船「飛鳥」が最後の航海を終え着岸しているとのニュースを聞いていたので是非とも、最後の勇姿を見たいものと期待を込めて道を急いだ。

しかし、大栈橋には影もかたちも無く、昨晚おそくに売却先のドイツへ出帆したとの事。残念無念。「山下公園」には、数多くのカモメが、手が届きそうな空中にユラユラ漂い餌を投げ与えてくれるのを待ち構えている。「氷川丸」のとも綱には骨休めのカモメが一列に並んでいた。「フランス山」を昇り「港の見える公園」で見下ろす港は以前とは大違いで、港が狭くなった。「イギリス館」「外人墓地」と回り、「元町」にでる。老舗の中に新興の店。何か、ミスマッチの感強し。

中華街で昼食。次から次へと出てくる料理を給仕が手際よく取り分けてくれる。全員よく食べて、ついに、食べきれず、お持ち帰りもでた。腹がはって動けない、あと3キロは歩けない、との意見多くここで解散する事にする。コースも料理も残したが、5キロ歩き、うまい中華料理を食し、全員納得し、ユックリ散策して帰ることにした。「歩き」も「中華料理」もお疲れさん。(新井 武/記)

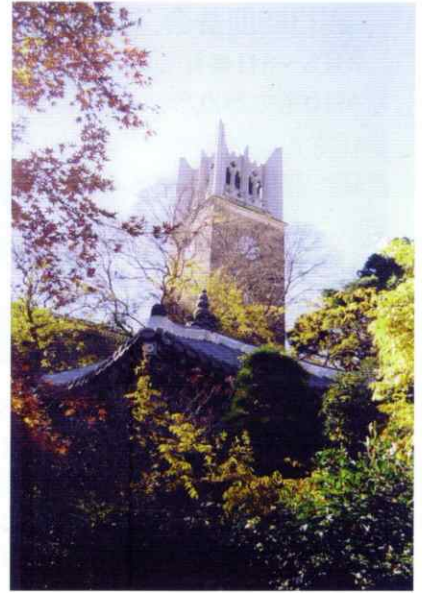
稲門写真館



青・白・緑のワンダーライト
スイスアルプス
浮田靖彦 (昭34法)



祭 浅草
川村保夫 (昭34商)



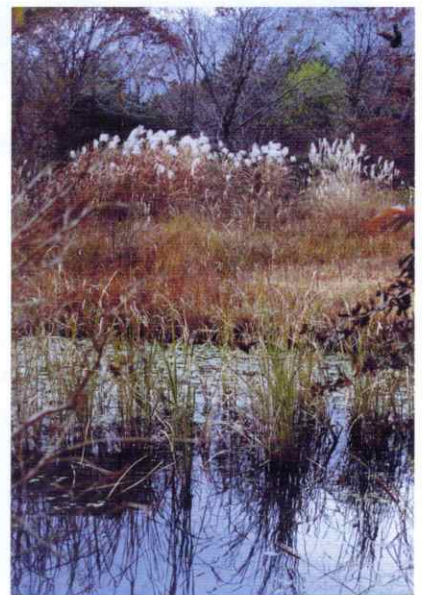
母校 早稲田
関根昌一 (昭23法)



彩り 八幡平
小池福子 (昭39文)



あくまでも透明なブルー
八幡平
種谷鴻成 (昭31理工)



晩秋 箱根
上田忠雄 (昭26理工)

世田谷稲門会 写真部会 入会ご希望の方、歓迎いたします。
 ○部活動 月一回の勉強会(年10回) 代表世話人 種谷 鴻成
 ○会議費 毎回実費 500円程度 世田谷区代田5-16-25
 ○会員数 21名 TEL&FAX 5433-7052



祈り パリ
 麻生卓司(昭34政経)



雲 タオルミーナ(シチリア)
 豊田 宏(昭34教)



秋 冬 京都
 鈴木宏治(昭38商)



鵜飼い 長良川
 守谷之男(昭29理工)



雪の花 自宅
 桜木武比古(昭21法)



山百合 東京
 岡田吉郎(昭35理工)

ブロック会だより

玉川

玉川会では、定例の愛唱歌の会のほかに、毎月1回イベントを実施するようにしております。去る2月18日(土)には、自由が丘の『すし屋の磯勢』にて〔拡大グルメ会〕を催しました。当日は土曜の昼と言う事もあって、参加者25人中ご夫婦が8組と盛況で、華やかな雰囲気の中で行われました。

ブロック会はエリアが狭いだけにご夫人方も打ち解けて、くつろいで頂けたようです。従来玉川会のグルメ会では、夜に安くてしかも美味しい店を中心にしていましたが、これからは、“高級な店”で、“ランチ”を狙い、“休日”に開くと、夫人同伴など多くの方に参加して頂けるようだ、世話役一同 意を強くしました。

また、玉川会では食べるだけでなく、芸術面も重視しております。3月3日には『自由が丘ラ・リュ』にて〔音楽鑑賞会〕(バイオリン及びピアノの演奏、詩の朗読)を行い、昨年と同じように家族的な和やかな時間を過ごしました。今後も、4月に見学会、5月にゴルフ会、6月には競馬観戦会と、イベントを予定しております。

(林 馨/記)



キャロット

会報第29・30号で触れておりますとおり、キャロット会が来たる6月に主催する稲門寄席の開催日が徐々に迫ってまいりました。

11月25日(金)「燕来春」にて、会員16名の参加のもとに懇親会を催しました。



席上「寄席」の企画を推進している富塚さん(41政)から、刷り上がったばかりの黄色のチラシを受け取り、しげしげと眺め、会員一同「稲門会」の名に懸け失敗は許されないゾと決意を新たにしています。

所詮、この筋では、素人集団が行なうことですので、他のブロック会々員各位からの力強いサポートが必要になります。よろしくお願いします。

(萩原 健/記)

西北

第11回西北会は忘年会を兼ねて12月12日に代々木倶楽部で開催しました。

西北会幹事の前原祖彦氏の挨拶の後、本日の講師桜木 武比古氏(昭和21法)から「早稲田に育てられた人生」と題して座談していただきました。

西北会で最長老の桜木氏は昭和13年に早稲田第一高等学院に入学、昭和17年学業を1年残して軍隊に入り、下士官兵84名の指揮官として南方の戦線に赴き、うち復員したもの4名という厳しい体験をされました。

その後も世田谷支部の保護監察官時代の裁判、地上げ屋による自宅放火など、数々の事件に遭遇しましたが、「真実一路」、「バカに徹する」という大学時代に身につけた教養で乗り切ってきたということです。15年前、自費出版した詩集「芝草の香」がプロの目にとまり、昨年9月に文芸社から出版された本を会員に配布されるなど多彩な経歴を披露されました。

座談のあとは、すき焼鍋を突付きながらの歓談となり、8時すぎに麻生卓司幹事の挨拶でお開きとなりました。

(寺島 邦夫/記)



きぬた

当ブロックとしては6ヶ月近く会を催しておりませんが、実は次回にお話いただく方に、江口力会員令嬢の江口ともみさんを予定しております。しかし、お忙しい方なのでなかなか日程の調整がつかず、今のところ3月～4月でお願いしていますが、未だ決まっております。もし決まれば急拠、1週間後などということもあり得るのではと、世話人は待機しております。

ここ2年ほど、このシーズンに夜桜見物と食事の会を催してきましたが、これも未定です。

いずれにしても、決定しだい、大至急ご連絡しようと思っておりますが、もうしばらくご猶予をお願いいたします。

(宮木 甫/記)



千 歳

昨年12月第6回親睦会を忘年会を兼ねて開催。

日時 17年12月6日(火) 午後5時30～8時

場所 大龍(中華料理店:千歳鳥山)

参加 20名

講演 「中国を旅して」(水島豊氏・昭40政経)

当日は「大龍」の休店日にもかかわらず、鈴木宏治さんの口添えにより、特別に貸切の配慮をしていただき、最良の雰囲気での開催。本部より副会長の柏良子さん、また前幹事長の前原祖彦さんにもご出席をいただき、当会半数超の参加を得て盛会でした。

今回は、日中友好協会の役員として活躍しておられる当会会員の水島さんに掲記テーマの講演をしていただきました。中国東北三省、北京、ハルピン、長春、瀋陽、大連を旅しての観光、料理、対日感情等その長短、裏事情等を含めて、具体的に楽しく、面白く、興味をひく話、皆さん中国へ一度は行きたくなるような気持ちにさせられました。

終了後は懇親の宴、特注のシルバー向きの中華料理に舌鼓をうちながら、老酒等お好みのアルコールを傾けて、四方山話に花を咲かせてのアツという間の2時間、お互いの健康と幸せを祈って、次回の再会を約して散会、楽しい一夜でした。

(武藤 哲/記)



さくら

第8回世田谷稲門会さくら会総会及び懇親会

第8回さくら会総会は2月19日(日)11:30AM、桜新町イタリアンレストラン「ラ・ピアンタ」にて開催。鈴木幹事長のご参加を含めて総勢21名。16年3月21日の総会で、世田谷稲門会のGブロックとして発足した本会はその後さくら会と名称を変更。会を重ねる毎に順調な発展を遂げ、約2年が経過。その間多くの方々が入会され、現在67名に達している。

年4回の懇親会の外、文化的活動としては高橋悦男早稲田大学名誉教授のご指導のもと、俳句の会の設立。音楽、能楽等古典芸能の鑑賞など多方面に互る。今後は更に鎌倉京都奈良等を含めて古美術古建築等の勉強会鑑賞会、美術館、博物館巡り等の企画も加えて行きたいと考えている。

1. 江原会計世話人より2年間の会計報告、監査荒井世話人



2. 本部と重複しているさくら会の部会 カラオケ、釣り、麻雀、ゴルフ、グルメの会は活動がダブるのでさくら会のこれらの部会は発展的に解消する。

3. 人事

世話人：(代表) 矢田廣、(事務局) 若林昭男、(会計) 江原利次、(監査) 荒井清

4. 見学会：国会の見学を6月頃に行なう。日程その他は追連絡。(矢田 廣/記)

「会員のひろば」

向田さんのご加護

富永 孝子

(昭和三十年文)

「あなた、こんなことをして
いないでご自分のものをお書
きなさいよ」

向田邦子さんの前に、私が書
いた無署名のTV番組企画書
が置いてあった。昭和五三年



頃のことだった。

昭和三〇年に卒業、大卒女
子の就職など無視されながら
ラジオ局、雑誌社で日雇いで

働いた。三年後、開局前のテ
レビ局に入社。創設期の活気
に押され超多忙な日々を過ご
したが、テレビ局の体質には
どこかなじめなかった。そこ
で書く仕事に自分の道を見出
した。企画書、宣伝文、PR
誌などを担当、それなりに充
実していたが、出産のため三

年余で退社。産休など制度の
前例もない時代だった。

一年後、古巣から再びお呼び
があった。私の裁量内での出
稿でよいとのこと。子育てに
高齢の義父母のこともあった
が、週一日の出社と在宅で
できる仕事は息抜きにもなった。

年々仕事はふえ、長男の入院、
義父母の発病に私の体が悲鳴
をあげ、長女を死産した。

それにもめげず一五年、日々
成長する長男が協力者になっ
てくれた。社会・教育・女性
をテーマの番組企画、構成や
日々の番組解説作成と間口も
広がったが、私はフリー契約
の黒衣。

百を超える企画書依頼に応え
ても常に無署名のむなしさを
味わっていた。その矢先の向
田さんの一言は、私にとって
天の声だった。

取材収集しておいた史料を基
に、父の死と私の少女期の原
点『大連・空白の六百日、戦
後そこで何が起こったか』を
書き上げたのは昭和六一年夏。
その時肝心の向田さんはすで
に還らぬ人になってしまわれ
た。

拙著は澤地久枝先輩が朝日紙

上で書評して下さい、毎、読
日経、産経、東京から地方紙
と、全国の各メディアに採り
上げられた。日・中・米の研
究者からの問い合せや取材も
受けた。五五歳からのスター
トは向田さんのご加護に支え
られた。二年後に前掲書の続
編『遺言なき自決大連最後の
日本人市長・別宮秀夫』を。

終戦六〇周年の昨夏、日・
独・米にまたがる一五年がか
りの『深海からの声』を上梓
した。昭和二〇年五月、ウラ
ンと機密兵器を搭載して日本
へ密航中のU234号内でド
イツの降伏に遭遇、米海軍へ
の投降直前に自決した日本海
軍技術士官の生涯を軸に、潜
水艦から見た戦いの悲劇を描
き、その発掘史料はNHKT
Vで番組化された。

こうして半世紀、映像ではな
く文章でテレビとかわかって
きた私は、そこで得た糧で念
願のものを書きになることがで
きた。時間と取材費を投じて現
地で納得いくまで調べる私の
手法に、税務署で言われた。
「収支を無視したこんな仕事は
職業ではなく趣味」と。

仕事を持つ女性への逆風も止

んだ。ホツとする七十路も半
ばの私を、無念の死を遂げた
男たちの魂がまた衝き動かし
はじめる。

世田谷区指定無形民俗文化財

みとしろかい

「三土代会」について

齋田 秀雄

三土代会世話人

(昭和二十七年政経)



世田谷稲
門会の皆さ
ん、世田谷
区の三土代
会と言う会

を耳にしたことがあるかと思
いますが、何をしている会だ
かあまりご存知ないと思いま
す。このたび世田谷・稲門会
幹部の方よりご依頼がありま
したので、三土代会の概略を
ご紹介することにしました。

「会の紹介」

天保年間(一八三〇〜一八四
三)農家一戸当りで搗く餅の
数量は平均四〇〇キロ、六〇
〇キログラムとかなりのもの
となり、限られた時間内に大
量の餅を搗く必要に迫られて
いた。そこで、代田本村の吉
沢純次郎、吉田三五郎、真淵

鍋吉、谷亀滝蔵、等により従
来の四人搗きから、六人また
は八人搗き方式へ(他に類を
みない)と改良された。この
餅の搗き方には代田独特のも
のがあり、「こねどり」の際に
「餅搗唄」が歌われ、搗き方が
合の手を入れて、調子を合せ
雰囲気盛り上げる。近代に
なり、代田村においても例外
でなく都市化が進むにつれて、
この伝統文化の後継者が減っ
て行く傾向があった。

そして第二次世界大戦後、齋
田平太郎を中心に檀家の人々
が尽力して、空襲で焼失した
村の菩提寺、圓乗院の再建を
果たした時、この事業を記念し
て、伝統文化を末永く継承し
て行く会を作ろうと言う事と
なり、昭和二十九年四月、三
土代会が結成された。この三
土代会の名前の由来は、かつ
て代田には、代田本村、中原、
下代田の三つの集落があり、
つまり「三」つの「土」に代
田の「代」をとって、三土代
会と名付けられた。

「現在の活動」

現在三土代会では地域の小学
校での実演、世田谷区新年の
集い、梅まつり、文化祭等に



も出演しており、また会の行事として、毎年一月の第三日曜日に、代田八幡神社の境内にて一般公開されている。
 棒打唄（麦打唄）は真夏の炎天下、庭先で麦を打つ時、調子をあわせるために、歌われたが、今この唄を歌える人は数少なくなっており、麦打ちは現在行なわれていない。
 私たち三土代会は以来半世紀近く、農家の伝統文化を後世に伝えるため、人材の育成や資料の収集、保管に努めている。
 平成十一年には世田谷区により、無形民俗文化財に指定された。
 そして本年（平成十八年）は三土代会の五十周年に当たり一月二十二日に記念行事を行った。
 以上、三土代会の概略を説明致しました。（三土代会、広報

資料より抜粋

最後に皆さん、「百聞は一見に如かず」と申しますが、是非一度ご覧頂きたいと思います。

二枚のメンバー表

ラグビー観戦、半世紀を越えて



吉村 豪介（昭三十四年教育）

一月八日、早稲田大学は大差で関東学院大学を破り二年連続、十三

度目の大学王者の座に輝きました。一ファンとしても真に嬉しい限りです。

丁度良い機会なので、自分がどこに惹かれてワセダ・ラグビーのファンになったかを申し上げてみたいと思います。

父に連れられて、まだ焼け跡のキズも生々しい「東京ラグビー場」に初めて行ったのが、昭和二十三年元旦の慶應対京大戦でした。当時は、二日、明治対関学、三日、早稲田対同志社：と続いて十五日の早大対関学戦が東西大学対抗の最後の試合だったように記憶しています。

そして、今、最も古い資料として手元にあるのが、昭和二十五年十一月二十三日の早慶戦のメンバー表です。前半

双方必死に守りあってノースコアの〇対〇、後半、早大が漸くトライを挙げて 九対〇で慶應を振り切ったのですが、実は、今になってみるとトライ・シーンは覚えていない、それよりもFBの新村選手が初めて名前を覚えた選手です。を中心全員が相手側にボールを自由にさせないという組織だった守りに感心したのです。

さて、二枚目のメンバー表が昭和二十七年九月十七日の対オックスフォード大戦、当時、高校一年でしたが、水曜日だったのに見ることができたのはキックオフが、午後四時だったからなのです。九月半ば初冬のような日だったと記憶しています。

このゲームについては故大西監督著の「ラグビー荒ぶる魂」（岩波新書）をはじめ、多くの著書に取り上げられているので、私ごときがクダクダしく申し上げるまでもありません

が、八対八の引き分けかと思つた最後の最後にFBマーシャルの蹴ったボールが曇り空の中のゴール・ポスト中央付近を高々と越えていった光景は目に焼きついて忘れることが出来ません、これが初めて見たドロップ・ゴールだったとは：

しかしながら、このゲームでも若手〇田を加えた全早大のディフェンスは組織立っており、オ大を一トライに抑えたのは見事でした。

私がノー・ガードの殴りあいのような、点を取り合う乱戦よりも、お互いにムダな反則をしない、ミスをしなないキツチリと守りあうゲームを好むようになったのも、この二試合を見たことによつてではないかと思つています

ワセダのラグビーといえば「華麗な」オープン・プレイに



よる攻撃が多くの人々の目を引くところですが「ゴール前のワセダ」という表現がメディアでしばしば用いられるように、本質的には「守り」にあると思います。

八日の決勝でも、関東学院のエース有賀に、全くといっていいほど仕事をさせなかったディフェンスは見事でしたし、そこからの切り返しから得点を重ねていったように見ました。個々の強化と関東学院の攻撃パターンのシミュレーションを余程やっていたのではないのでしょうか。

家庭用ベータマックスで始まった、ワセダのゲームの収録テープもVHSになり、今や相当の量です。ソロソロDVDにしなくてはとも思いますが、業界は今や「次世代」で大ゲンカをしている始末、ユ一ザーとしてはどうしたら良いかと思案している昨今です。何にせよ「秩父宮」通いが最も大事なのでそれが、いつまで出来るか分かりませんが、「攻守」にバランスの取れた「強い」ワセダ・ラグビーを見続けたいものと願っています。

新入会・休会・退会の正誤・住所移転等のお知らせ

「名簿（平成16年4月発行）・会報30号記載事項」以降（敬称略）

（新入会員）

氏名	卒年	郵便番号	住所	電話	FAX
雨倉 敏弘	昭46 法	個人情報につき不掲載			
大田 隆	昭45 商				

（退会員）

氏名	卒年	退会理由
井上 秀一	昭8 商	
山田 勝彦	商54 商	

稲門寄席のご案内

さん光改め柳家甚語楼（写真・平成四年法学部卒）の真打昇進披露を兼ねた『稲門寄席』（世田谷稲門会キャロット会主催・世田谷稲門会後援）が左記の通り開催されます。初夏のひとときを寄席演芸でお愉しみてください。

記

日時 六月二十五日（日）

午後二時開演

会場 シアタートラム

（三軒茶屋キャロットタワー一階）

会費 三千円（一人）

五千円（ペア）

出演 柳家ごん坊、橋家円十郎、柳家権太楼、橋家円蔵、林家正楽、柳家甚語楼

柳家甚語楼

申込先 萩原 健 三四二二一〇八八六



春季代議員会開催

今年度の春季代議員会は三月六日（月）に大隈講堂で開催された。

最初に白井克彦会長から最近の大学の活動状況・方針に關しての挨拶のあとに瀬下明代表幹事が議長となり、二〇〇五年度の活動報告ならびに經常收支決算予想、〇六年度の予算、幹事選任、推薦校友候補者承認の件などの協議事項と賛助代議員記贈呈、代議員支部長等の異動、〇五年度稲門祭の件などの報告事項があった。

代表幹事からはさらに

・ 一二五周年事業寄付金の達成状況と一二五万円以上の寄付者に新装の大隈講堂の椅子席に寄付者の銘板を貼付し、八万円以上の寄付者には講堂内に芳名を表示する。

・ 〇六年度新卒者より、十年分の校友会費を徴収する。

・ 同時に校友会納入者十二万人をめざす。

・ トップアスリート奨学基金、寄附講座、卒業式前夜祭、体育各部特別強化補助費、大隈記念タワー十六階校友サロン運営など新規・強化事業等に支出するなどの説明があった。

その後大隈ガーデンハウスに移動して懇親会が催された。

編集後記

惨敗に終わった箱根駅伝に始まった今年の早稲田は、清宮ラグビー、そして荒川、村主の大活躍で息を吹き返した感もあるが、早慶レガッタ、野球のリーグ戦と目白押し、選手諸君の奮起に期待したい。

大隈講堂のリニューアル工事が4月から約1年半の予定で始まる。今年のホームカミングデーは10月22日決定。2年後に迫った創立125周年の記念行事に会員諸兄と参加できる様、ご壮健を祈念する。

（細澤 勲）

会報では各ブロック毎の楽しい集まりを順次紹介していますが、新しく発足された会があればご一報下さい。

例えば、さくら会では高橋悦男先生のご指導で俳句の会をスタートさせています。俳句に興味のある方は編集係まで連絡くださいれば資料をお送り致します。

（江原 利次）

会報を担当して丸2年。紙面のカラー化や新シリーズの「母校の今」、また「会員のひろば」への皆様の積極的な投稿など なんとか軌道に乗つつあるかなと思ひ始めています。

今号では写真部会の「紙上展示会」を企画してみました。デジタル印刷の世界で作品をどこまで表現できたか心配です。

これからも多くの方に登場いただく企画を検討中です。アイデアお待ちしております。

（寺島 邦夫）